

シャフト・プログラムについての評価コメント

東京大学社会科学研究所

玄田 有史

令和6年度についても、これまでと同様、すべてのKPIを達成するなど、一定の成果を挙げられてことは、高く評価できると思う。

評価内容の詳細は、昨年度に述べたものと概ね同じであるため、あえて重複しない。そのうえで、今後に向けた提案などに記載された内容について、ひとことだけ述べておきたい。

利用者が在職中の転職希望者など、当初想定されていた対象とかなりの程度異なっていた点については、その理由についてより詳細に検討していただき、今後のプログラムの方向性の策定に活かしていただきたい。

人手不足が続くなかで、全体的には若者の就職状況は改善し、賃金についての中高年に比べると増加傾向が強くみられている。いずれも労働市場の需給動向の改善の恩恵であることは疑いないが、それでも仕事に就けない若者は存在する。かつての不況期であれば採用されていなかった若者も、なにより人材確保に悩む企業が採用要件を緩和したことで、無事就職に至ることもある。だが、その結果、人手不足にもかかわらず採用に至らない若者のなかに、一朝一夕には解決しない複雑な課題を有する人々の占める割合が上昇することになる。実際、本人の自助努力や、家族などの身近な人々による支えだけでは、状況の改善が到底望めない場合も、けっして少なくなっていることはないだろう。

それゆえ、若者に対する就業支援は、不要になるどころか、むしろ必要性は高まっている。ほかにも就職が難しい人々が少なからずいる状況であれば「苦しいのは自分だけではない」と感じ、多少なりとも気が紛れることもある。しかし、求人はあるのに仕事に就けないとなれば、「社会から自分は必要とされていない」と本人が感じて無理はない。若者支援には、若者が深く抱え込んでいる「疎外感」にこれまで以上に向き合うことが求められており、若者支援全体に「見捨てない」対応がますます欠かせなくなっている。

その意味でも複雑な課題を持つ若年層に対して、シャフト・プログラムで培われた経験がどのような支援に、いかに具体的に活用されていくのか、注目している。

その際、「スモールビジネス」の活用は、やはり注目に値する。広範囲で何重にも絡み合った若者の困りごとを一気に解決することは、現実的ではない。だとしても、すぐに諦めるのではなく、「大きく困っていることのなかから少しだけでも困りごとを減らす」「重い荷物をほんの少しでも軽くする」ことはできるかもしれない。それによって若者自身が「自分でも変わることができる」という希望を持てれば、社会から排除されているという阻害感を和らげることにもつながる。スモールビジネスを通じた「小さな成功体験」の積み重ねは変化の手立てとなるかもしれない。

正規雇用以外の目標を柔軟に設定することも理解ができる。抱えている課題が明確かつ

限定的であれば、計画的に段取りを立てて「ステップアップ型」の支援が有効だろう。最初
は社会参加、その後に短時間や有期での雇用、最終的にはフルタイムで無期の安定雇用を
目指すのは、ステップアップ型もしくは上方移動のための垂直型の就労支援の典型である。

一方で、本人ですらどうすればいいのかわからないほど、複雑に絡まっている課題に
対しては、ステップアップ型支援は、そもそも成り立たない。だとすれば、変化の兆しや瞬間
を見逃すことなく、どのようなかたちであれ、スモールビジネスを含め、ささやかでも仕事
をすること自体が、現状を変えるきっかけになるという姿勢こそが支援には重要になる。

その場合、ステップアップ型支援では失敗とみなされがちな「元の状態に戻ってしまう」
という状況さえも、「戻れる場所」であることを肯定的に捉えるべきかもしれない。支援事
業が就業と無業を安心して行ったり来たりできる場所、すなわち「リトリート (retreat)」
可能な場所として、複雑な課題を抱える若者が認識できる場所になること。それは、これか
らの若者支援のあるべき方向の一つになるかもしれない。

仕事を通じてより良い状態に上方移動できることが垂直的支援とすれば、苦しい現状を
横にずらしながら自分や社会の見方を変えられるよう支えることは、いわば水平的支援と
言える（ステップアップ型支援との対比でいえば「スライド型支援」とも言えよう）。

今後、孤独孤立就労支援事業には、労働市場の動向にかかわらず、人手不足の追い風に乗
り正社員化に向けた垂直的支援を必要とする若者も一定数訪れる。同時に水平的支援を必
要とする複雑な課題を抱える若者にも向き合えるよう、シャフト・プログラムが垂直と水平
の複線的な支援の両輪となることが、複雑な課題を抱える若者から問いかけられているよ
うに感じている。

シャフト・プログラムで得られた知見を踏まえ、今後の孤独孤立対策就労支援事業の展開
に期待している。